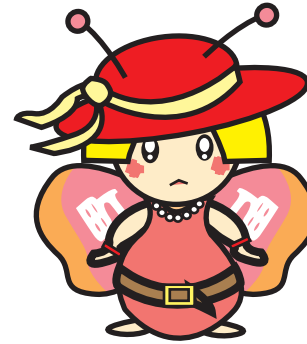




豆知識よ！

町家の特徴について！？

建物の外には犬矢来、虫籠窓、
ぱったり床几といったものがあるし、
建物の中には箱階段
があります。

造られた時代によって2階の高さが違っていたりもするのよ！
よく観察してみてね。

杉：古い建物は暮らしにくって聞いたけど・・・。

菊：確かにそうかもしれないな。でも、自然の光が入ってくるし、開け放つと風がよく通るなど、自然を生かした昔の人の知恵を感じさせる建物だよ。今、流行のエコライフだ！

さらに、まちの伝統や文化の中で暮らしているという満足感も感じられるよ。先祖から伝えられたこの家を、私も大切に守っていきたいと思っているんだ。町家は年々減ってきているしね。

杉：なるほど。古いというだけではない魅力を感じますね。

ゆ：お父さん、お腹がすいてきたよお。

菊：じゃあ、近くにあるカフェにでも行ってみようか。

外に出てカフェに向かう杉木さんたち3人。
その後ろを5メートル50センチの間隔を保ちながら黒
ずくめの男がつけている。
すると突然立ち止まって振り向いた杉木さん。

杉：ところで、あんた！さっきから私たちの後をつけて
いるようだけど、何か用ですかね！？

黒：ドキッ！あわわわ！これまでオットくんを押されて
、一度として物語に登場することがなく、このまま
物語が終わってしまうのではと心配になったので出
てきたのです。きっと読者のみなさんもハラハラし
ていたのではないのでしょうか。

杉：そんなもの、誰が心配するねん。だいたいキャラク
ター付けもはっきり決まっていらないらしいし。あん
たの名前は？

黒：実はまだつけてもらっていないんです。きっと、私
が主役の番外編がつくられると思い・・・

菊：あそこですよ！

菊沼さんが指差す先に、観光客と思われる女性グルー
プが出て行く町家がある。

菊：この店は明治時代からある町家を使ったものなん
ですよ。（ガラガラガラ）こんにちわ。マスター。

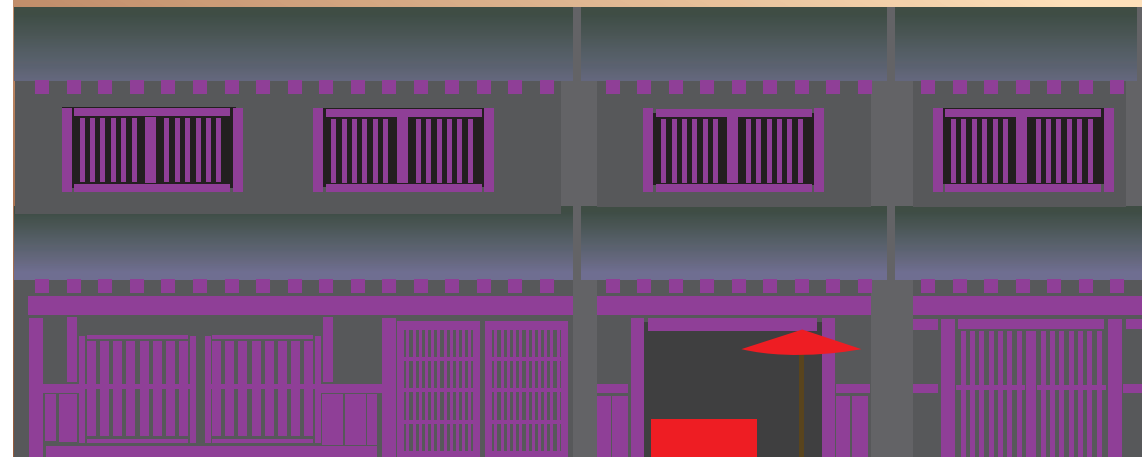
田谷（以下、田）：いらっしゃい、菊沼さん。今日は小
さなお客さんも一緒だね。

菊：お店の調子はどうですか？

田：オープンして以来、近くに勤める方たちや観光でい
らした方を中心にご利用頂いたり、近所の方が毎日
のようにコーヒーを飲みに来てくださるです。お客
様には町家が持つ懐かしくもあり新しい魅力を感じ
るって言ってもらってます。

このまちには派手な看板を掲げる店よりも、うち
の店のように、まちなみと合った店構えの方が評判
がいいようです。そうそう、これは今日、常連のお
客さんから頂いたものなんですけど、よかったらど
うぞ。

杉：ありがとう。むむむ？ふ菓子？もしかして・・・。



店の中を見渡すと、スポーツ新聞を読みながらコーヒーを飲んでいる駄菓子屋のヒデオさんの姿があった。テーブルの上には食べかけのケーキが載っている。顔に似合わず甘党らしい。杉木さんと目が合ったヒデオさんは、にっこり白い歯をのぞかす笑顔とともに、今どき小学生でもやらないピースサインを返してきた。

その日の夜。杉木さんたちは、鬼めがけてたくさんの豆を撒いている。

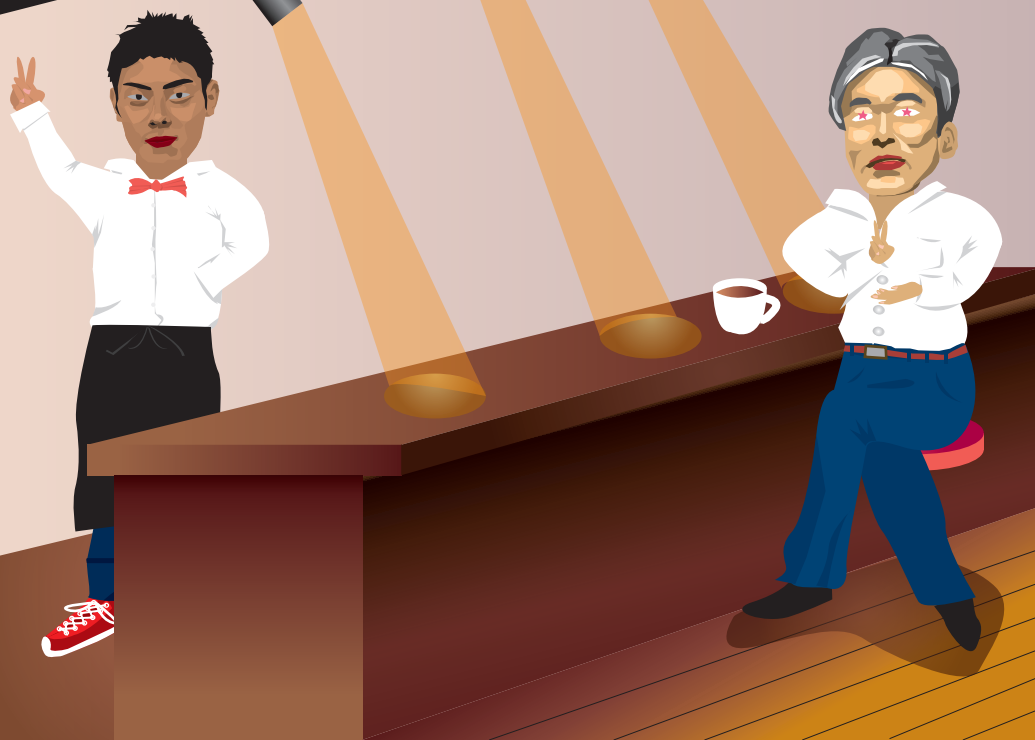
「鬼は外！福は内！」

鬼のお面をかぶっているのは黒マントの男だ。こんな役でも登場場面があるので喜んでいる。

現実の鬼はどこにいるのか、そして、杉木さんのささやかな福は来る日があるのか。

明るく笑いが絶えないまちには、鬼はいない。

そこには福があるだけ！！



今ある街は、みんなの想いでできています。
未来の街は、みんなの笑顔でつくられます。

都市は一日にしてならず。一人でもならず。

このことを胸に、一歩ずつ未来の子供達の
笑顔を信じて都市計画物語を紡いでいきます。

都市計画物語本編これにて終わり！！
次回、都市計画物語番外編スタート！

